

様式3 全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (国語)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○話す・聞く：正確に聞き取り自分の考えを分かりやすくまとめ、主体的に表現する力の育成が必要。</p> <p>○書く：伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことができていない。</p> <p>○読む：文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをなかなかもつことができない。</p> <p>○言語：小学校で学習する漢字や語彙の定着。</p>	<p>○話す・聞く：生徒が関心・意欲をもつ題材で単元を設定し力を育む。また、普段から自分の考えを発表する場面を設定する。</p> <p>○書く：文章の中の自分の考えや気持ちについての根拠が書かれているかどうかを毎回振り返らせる。接続語、段落構成の工夫にも着目させる。</p> <p>○読む：文章を良く読んで、その工夫や効果について自分の考えをまとめ、交流するようにする。</p> <p>○言語：漢字の成り立ち、部首字体、筆順の単元や辞書学習で漢字語彙の関心・意欲を引き出す。</p>	<p>ア．課題未提出、目標未達成の生徒の個別指導を行う。</p> <p>イ．漢字ノートを活用させ、継続的に漢字学習に取り組みさせ、定期的にテストを実施していく。</p> <p>ウ．「読書の授業」を通して、ものの見方や考え方を広げ各領域の力を高める。</p> <p>エ．「読書の小径」で読書記録を書かせ関心・意欲を高めていく。</p>
第二学年	<p>○話す・聞く：プレゼンテーションなどの準備活動が授業内で終わらないことが多い。</p> <p>○書く：文章の構成や描写を工夫して書く力、意欲を持たせる指導をする。</p> <p>○読む：筆者の論理展開の仕方、描写の工夫に対し自分の考えをまとめる活動が不十分である。</p> <p>○言語：用言の活用、助詞助動詞等の演習が必要である。</p>	<p>○話す・聞く：毎時の言語活動の流れを見直し、より効率的な指導をする。</p> <p>○書く：ワークシートを活用し生徒全員が根拠や具体例を整理して文章を書く言語活動をする。</p> <p>○読む：クリティカルリーディングや描写に着目した詩の授業を実施する。</p> <p>○言語：練習プリントを作成し、文法事項の演習を多く行う。</p>	<p>ア．課題未提出、目標未達成の生徒の個別指導を行う。</p> <p>イ．各生徒のレベルに合わせて漢字検定4級から2級程度の漢字学習に取り組みさせる。</p> <p>ウ．様々な作品に触れるワークブック、読書と「私の一行」、手紙文などの課題を夏休みに与え補充的な指導を行う。</p> <p>エ．中学校で学んだ文法事項の復習プリントで補充的な指導を行う。</p> <p>オ．自習ノートを提出させ、復習、苦手分野の反復学習、発展問題への挑戦を促す。</p>
第三学年	<p>○話す・聞く：授業で身につけた技能を日々の生活で活かす意欲を抱かせていない。</p> <p>○書く：根拠や具体例を集め、論理の展開や描写を工夫をした文章を書く力を養う。</p> <p>○読む：同種・異種の社会の実際の文章を読み比べ考えをまとめる言語活動が不十分である。</p> <p>○言語：関心・意欲を引き出す古文、言語の指導ができていない。</p>	<p>○話す・聞く：生活で活用できることを実感させ意欲を持たせる。</p> <p>○書く：根拠や具体例を集め、文章の組み立てを考えて主張文・批評文等言語活動を行う。</p> <p>○読む：同種・異種の文章を読み比べ、自分の考えをまとめ伝えよう言語活動を行う。</p> <p>○言語：漢文の押韻を流行歌と比べる、奥のほそ道にならった紀行文作成等の単元を実施する。</p>	<p>ア．課題未提出、目標未達成の生徒の個別指導を行う。</p> <p>イ．各生徒のレベルが漢字検定3級に到達するように漢字学習に取り組みさせる。</p> <p>ウ．文学作品、説明文、随筆、詩、短歌などに触れるワークブックを課題として与え、補充的な指導を行う。</p> <p>エ．入試の過去問題に取り組み、受験への意識を高める。</p> <p>オ．自習ノートを提出させ、復習、苦手分野の反復学習、発展問題への挑戦を促す。</p>

様式 3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (社会)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>(1)資料を使って考え、自分の考えを発表する力が弱い。</p> <p>(2)他者の意見に対して根拠をもとに批判する力を伸ばす必要がある。</p> <p>(3)与えられた課題に最後まで取り組むことができない生徒がみられる。また、学力の差が少しずつあらわれてきた。</p>	<p>(1)授業の中で考える場面を多くすると共に、グループでの発表する機会を多くする。</p> <p>(2)他者の意見に対して、質問・批判する場面をつくる。</p> <p>(3)取り組みやすい授業確認プリントを作成し、本当に理解できているかどうかを、きめ細かく把握する。</p>	<p>○授業内容がより深まるような資料を用意する。生徒が興味・関心をもつ教材を準備して、発言したくなる学習を計画する。</p> <p>○理解が十分でない生徒に関しては、放課後等の時間を利用し個別に指導するなど繰り返し学習を図る。</p>
第二学年	<p>(1)資料をもとに考えて、自分の言葉で表現する力が低い。</p> <p>(2)他者の意見に対して根拠をもとに批判する力を伸ばす必要がある。</p> <p>(3)基本的な知識の学力差がみられる。</p>	<p>(1)基本的な資料を提示し、資料の見方・表現の仕方を指導する。グループで考え、発表する機会を多くする。</p> <p>(2)他者の意見に対して、質問・批判する場面をつくる。</p> <p>(3)取り組みやすい授業確認プリントを作成し、定期的に小テストを実施し、繰り返し学習の大切さを実感させる。</p>	<p>○放課後や休み時間等を利用して、個別にきめ細かく指導する。</p> <p>○すすんで自習ができるように、授業確認プリントを用意する。</p> <p>○理解が十分でない生徒に関しては、放課後等の時間を利用し個別に指導するなど繰り返し学習を図る。</p>
第三学年	<p>(1)自分で考えた表現に自信がなく、すぐに模範解答を求めて、それを暗記している。</p> <p>(2)他者の意見に対して根拠をもとに批判する力を伸ばす必要がある。</p> <p>(3)第2学年と同様、理解している生徒と理解していない生徒の差が大きい。</p>	<p>(1)考えを書かせたものを回収し、個別に添削することで表現の仕方を指導する。</p> <p>(2)他者の意見に対して、質問・批判する場面をつくる。グループで討議し、発表する機会を多くする。</p> <p>(3)定期的に総復習テストを実施して、基礎学力の大切さを実感させる。</p>	<p>○副教材や復習プリントを活用して、放課後や休み時間等を利用して、個別にきめ細かく指導する。</p> <p>○K中ゼミを行い、発展的な内容を指導する。</p> <p>○実際の入試問題を解かせる。</p>

様式3 全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (数学)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>標準コースは、学習内容の定着と理解力も、順調に進んでいる。</p> <p>基礎コースでは、基礎学力の差異から、かけ算の九九や、小数・分数計算から、やり直す部分もあり、全体的な定着に若干の難が生じている。どうしても、授業中で特に習熟の遅い生徒に対する個別の対応は、時間的に限界があり、十分といえない状況である。</p>	<p>標準コースでは、発展問題や課題を随時用意する形を、今後取っていく。</p> <p>基礎コースでは、基礎の中でも学習意欲と理解力の高いものを、標準に上げていくことと、併せて、基礎の基礎を定着させる、二重構造を模索していく。</p> <p>そのためにも、技能の確認の課題を実施していく。(小テストや毎時間の宿題の確認等)</p>	<p>アイ：副教材等の課題学習で、A（基本～標準）問題・B（標準～発展）問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。</p> <p>また、標準コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用したり、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p> <p>ウ：K中ベーシックの活用</p> <p>エ：習熟度別授業で理解度に合わせて実施する。</p>
第二学年	<p>数学の学習内容の理解度や取り組み意欲など、満足いく者と、不十分な者との差が大きいことが、あげられる。基礎コースの中での実質的な2分割が学習成果の引き上げを阻んでいる。</p> <p>なるべく標準コースの参加人数を増やしていくよう、生徒たちにも呼びかけや、促しをしているが、成果に結びつかない。</p> <p>どうしてもテストや学力調査の平均点が停滞気味で、効果的な生徒配置が見つけられない。</p>	<p>「基礎：標準＝1：3」程度の生徒配分に取り組む。</p> <p>その土台から、特に基礎コースでの「小学校レベルのやり直し」を、各単元の技能や知識理解の内容に対して、細かく入れ、確認評価も強調していく。</p> <p>その中で、「解くことが出来る」学習成果を積み上げ、学習意欲も含め、向上させていく。</p>	<p>基礎的には、教科書等の例・例題・考えようなどを、解き方のサンプルだけではなく、解く教材として提示し、その上で、副教材等の課題学習で、A（基本）問題B（標準～発展）問題を利用しながら、コースや個々の理解度に合わせて進めていく。</p> <p>さらに、発展的な課題や問題も、標準コースでは、適宜入れていく。</p>
第三学年	<p>標準コースと発展コースと、2展開で進めている。</p> <p>最高学年として落ち着いた中での授業は出来ており、個々に関わる学習の定着も進んできている。</p> <p>ただ、発展コースに挑みかかる子が目立って少なく、「基本から、コツコツと…」との思いを持っている者が多い。</p> <p>入試対応も含めた発展的問題をどの程度シェアしていくか、算段していきたい。</p>	<p>それぞれのレベルの演習時間を、1、2年の内容もフィードバックしながら、学習を構成し、個々のレベルアップを図る。あわせて、生徒同士が互いに発表したり、教えあったりする場も意図的の設け、刺激を与えつつ、解く上での差異を見せるようにする。小テストも計画的に実施していく。</p>	<p>習熟度別学習方法としての、副教材等の課題学習で、A（基本～標準）問題・B（標準～発展）問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。</p> <p>また、標準コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用し、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p>

様式3 全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (理 科)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に目を向けるよう目的意識をもった観察、実験を行っている。 ・科学への興味、関心を高める工夫が課題。 ・観察、実験レポート等の評価をより意欲を高めるように改善したい。 ・4観点の中で「科学的な思考力」がやや不十分である。「知識・理解等」の学習から更に、思考力を高めていくための指導方法の工夫が必要である。 ・個に応じた、きめ細かな学習指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、対話をしながら科学的思考力に関わる問題を多く取り上げ、時間をかけて追究する学習形態にする。 ・小学校の学習内容と関連づけて指導計画をたてる。 ・ねらいをはっきりさせてから実験、観察に取り組ませたい。 ・授業において学習内容を系統的に進めて、論理を積み重ねさせたい。 ・実験、観察の方法を生徒の視点から見直したい。 ・形成的評価をSP表等により分析し、次の授業に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1、2回学力テストで補充問題や、発展的な問題演習を行う。 ・定期テスト前の土曜日に年4回の補充教室を行う。 ・K中ベーシックで週3回補充的な指導を行う。 ・第2土曜以外の土曜日の2時間の補充教室の実施。 ・ミニテストやその補充シートを用い基礎基本を繰り返す。再テストの実施により、達成率を上げる。 ・繰り返教科書や資料集の発展課題を取り上げ、時には演示実験等により関心、意欲を高める。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説実験授業「燃焼」で科学の楽しさを感じ始めた。 ・週1回の探究実験授業は生徒のほとんどが楽しみに毎回積極的に参加した。 ・通常の授業の他に、計画的に入試を視野に入れ家庭学習用の問題集を配布し、放課後の補習で説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの実践として仮説実験授業を行い思考力判断力を養いそれを文章にまとめ発表することで、科学に対する興味と共に、論理的な表現力を養う。 ・家庭学習用として入試問題集を課題としてやらせ、その後テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4、5回学力テストで補充問題や、発展的な問題(入試問題)演習を行う。 ・定期テスト前の土曜日に年4回の補充教室を行う。 ・K中ベーシックで週6回×2時間の補充的な指導を行う。 ・K中ゼミで11月から200単位時間以上の補充発展の入試対策問題演習の補習授業を行う。これ以上の努力はできない。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間の探究実験で様々な現象に触れ、自ら実験を通し探究する力を身につけさせているが、能動的に学習に慣れていない生徒には馴染めない。 ・入試問題集を再編集し家庭学習や、放課後補習を400単位時間開き指導をしているが、参加者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究実験は90%以上の生徒が満足している。文化発表会で研究成果を発表することで表現力をつける。 ・2月に校内作品展で発表することで1年間のまとめを行い、より深く探究する。 ・問題集からテストを行い成績に反映させることで学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4、5回学力テストで補充問題や、発展的な問題(入試問題)演習を行う。 ・定期テスト前の土曜日に年4回の補充教室を行う。 ・K中ベーシックで週6回×2時間の補充的な指導を行う。 ・K中ゼミで11月から200単位時間以上の補充発展の入試対策問題演習の補習授業を行っている。年400時間の補習を行っている。これ以上の努力はできない。

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (音楽)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の基礎がわかっていない。理解に時間がかかる。 ・笛の運指が覚えられない生徒がいる。 ・歌唱の能力が高いのでしっかり1年から伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く、演奏するを通して理解をさせていく。 ・プリントの多様と授業内では難しいので補習を行う。 ・発声を重視し、3部合唱など積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、放課後を使って個人指導を行う。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の基礎がついてきたので実技に生かせるようにする。 ・意欲に応じて様々な課題を与え、多角的に音楽表現の能力を伸ばしたい。 ・歌唱の能力は伸びてきているので、このまま伸ばしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の機会を多く設け表現に生かせるようにする。 ・プリントなどの活用により、しっかり理解させると共に考察の場面多く取り入れたい。 ・様々な曲を取り入れさらに歌唱のスキルを上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、放課後を使って個人指導を行う。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の基礎がついてきたので実技に生かせるようにする。 ・まとめとしてこれまでの学習してきたことの理解を定着させたい。 ・合唱の意欲は高い。発声を重視し、さらなる表現を得とくさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の場面を増やし実技で使えるようにする。 ・プリントなどを活用し理解と復習をしっかりと行うと共にそれをもとに考察が出来るようにする。 ・発声の重視と課題を選び、能力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、放課後を使って個人指導を行う。

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (美術)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に集中して制作に取り組んでいる。 ・発想・構想の点で、ポイントがおさえられていない生徒がいる。 ・ポスターカラーの平面的な彩色の仕方等、技能の点で、基本的技能を指導しても同じ間違いを繰り返す生徒がいる(筆の使い分け、筆運び、混色の仕方等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入部分で、ポイントを簡潔に説明する。 ・板書やプリントを工夫し、ポイントをいつも確認できるようにする。 ・基本的な技能を身につけられるよう、適切な時間を設定する。 ・個々の状況に合わせて個人指導をきめ細かく行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を日常的に見せる。 ・遅れている生徒は、昼休み等を使って指導する。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に集中して制作に取り組んでいる。 ・用具の使用法等、技能の点で、基本的技能を指導しても同じ間違いを繰り返す生徒がいる。 ・発想・技能面において、個人差が激しい。 ・全体的に、丁寧にやっているのに予定より時間がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状況に合わせて個人指導をきめ細かく行う。 ・用具は正しく使わないとけがに繋がるため、強く注意喚起をする。 ・生徒の発想の幅を広げ各制作で有効活用できるように、美術室の教材を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を日常的に見せる。 ・遅れている生徒は、昼休み等を使って指導する。 ・後の課題を、予定より短い時間でできるように内容を工夫して調整する。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に集中して制作に取り組んでいる。 ・発想・技能面において、個人差が激しい。 ・アイデアがあっても自分の描写力がついていかず、作品に生かしきれない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状況に合わせて個人指導をきめ細かく行う。 ・用具は正しく使わないとけがに繋がるため、強く注意喚起をする。 ・絵が描けなくても、最初は言葉から考えさせる等、発想を展開しやすくする。 ・自分にできる表現方法から発展させ、作品完成まで取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を日常的に見せる。 ・遅れている生徒は、昼休み等を使って指導する。 ・生徒が作りたい作品をイメージできるように多くの参考作品を取り入れる。

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (保健体育)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	自分自身の技能を把握できている生徒もいるが、全員が課題をもって取り組んでいるわけではない。自分自身の技能を把握させ、相互にアドバイスをさせる場を設ける必要がある。	生徒の意欲に合わせ、課題を設定し、こまめにアドバイスしていく。また、意欲的な生徒と一緒に学習できるように、ペアでの学習設定を多く取り入れていく。	学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。 また、グループ内で生徒同士の教え合いができるように、リーダー的な存在の生徒にもアドバイスするように促していく。
第二学年	苦手意識を持った生徒や支援の必要な生徒がいるので、運動の楽しさを体感させるために、個々の技能に応じた指導や、段階的な指導をおこなっていく必要がある。また、けじめをつけられない生徒もいるので、より安全面に配慮する。	授業の導入や単元の導入で興味関心の高まる体育理論を取り入れ、集中して話を聞く姿勢を作る。また、実技の授業の中では、安全についての配慮などの話は、実際の場面で繰り返し指導していく。	学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。注意事項が聞けない生徒には個別に指導をする。また積極的に運動活動に取り組める生徒に対しては新しい課題を提示し、さらに上を目指して、意欲的に学習できるように指導していく。
第三学年	自分の課題を把握できていない生徒がいる。自分に合った課題を見つけ、改善していくことができるような授業を展開していく必要がある。	具体的にやって見せて、生徒の意欲・集中力を高めていく。また、注意点をお互いに確認できるようにペアやグループ学習を設定する。また、単元の途中で目標の見直しが必要な時は、その場に応じた指導を適切にしていく。	学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。 目標や課題がわからなくなってしまった生徒には、個別支援をしていく。 また、グループ内で生徒同士の教え合いができるように、リーダー的な存在の生徒にもアドバイスするように促していく。 保健の授業において、自然災害について深く学ぶ。また心肺蘇生法については実習を行う。

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (技 術)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に前向きに取り組むが生物育成・木材加工による作業で、意欲、技能などに大きな個人差を生じている。 ・家庭科が専任ではないので、授業を連続してできないため、実習が思うように進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の作品の写真をICT教材として活用し、実物を見せ、意欲をもたせる。木材加工では個別の対応に力を入れ、技能差に対応できるように生徒の把握と見本や一部加工の補助を行う。 ・毎時間の課題を着実に取り組ませる。 	<p>【補充学習】分からないところやうまくいかないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>【発展学習】設計や作業のしかたを工夫し、考える時間を設定する。放課後の時間を利用して個人的に対応する。</p>
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材や実験に高い興味・関心が見られ集中し意欲的に取り組んでいた。その反面、座学の際の学習意欲、集中力が低く、プリントなどの提出物の完成度が低い。 ・家庭科が専任ではないので、授業を連続してできないため、実習が思うように進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材の準備、実技教材の準備をし授業の計画をし、授業への関心意欲を高めていく。また、グループでの話し合いなど、環境を変えた課題解決に取り組ませる授業を行う。 ・昨年の作品の写真や実物を見せ、意欲をもたせる。 	<p>【補充学習】うまくいかないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>【発展学習】設計や作業のしかたを工夫し、考える時間を設定する。放課後の時間を利用して個人的に対応する。</p>
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の「電気」に関して苦手意識が強い生徒が多いがまじめに授業に参加している。作品作りへの興味・関心も高く集中して作品作りに取り組む姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組めているのでICT教材の準備、実技教材の準備をし、ていねいな授業の計画をし、授業への関心意欲を低下させないようにしていく。 	<p>【補充学習】分からないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>【発展学習】仕組みを応用し、発展したものを考え、設計する時間を設定する。</p>

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (技術・家庭 (家庭領域))

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・実技に重点を置いているため、理論的な裏付けをすることが不十分である。 ・授業で行った学習内容が日常生活の中でどれだけ改善されたのか把握しにくい。 ・作業全体を見通しての実施経験が少ないため、自分の作業へ自主的に取り組めず、出来ていないことに気づかなかったり、自信なく全ての指示を求める生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した理論の裏付けが出来るよう、実技とのバランス配分を改善していく。 ・年間を通じて実践レポートの提出を呼びかけ、生活の改善の行方を把握していく。 ・主体的に学習を進められるよう、授業の最初にその時間の課題を師範等で徹底するとともに各作業段階の見本等を多く用意し主体的にやる気を引き出すとともに細やかな段階毎にチェックや評価をし、励みとなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を見直し、改善していかうという課題を段階を追ってレベルアップさせながら年間を通して与えていく。 ・ホームプロジェクトなどを行い、課題発見→改善計画→実践といった課題を与えていく。 ・作業の進度に個人差があるので、やる気をなくさせないよう、時間毎の課題修了者には別のものを用意し、遅れた場合には補習を行い全員が毎時間新たな気持ちで取り組めるようにする。
第二学年			
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・保育領域の具体的な教材資料の種類が少ない。 ・将来自分の子どもや社会の一員として子どもの養育にあたる立場の生徒に現在までの自分を振り返り幼児期の大切さを実感させたいが、大きな視野で考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR,DVD、模型などを活用し身近で、より具体的な教材の整備を行う。 ・実生活で幼児と触れ合うことが少なく関心も少ないため視聴覚教材や模型などを多く利用し、胎児から段階をおって振り返り学習をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞テレビなどの報道の中から今現在、子どもを取り巻く環境の問題点を取り上げ考えたりレポートにまとめることにより社会人としての自覚を持たせる。

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (英 語)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	英語に対する興味や関心が高い生徒が置く、自己紹介など自分に関する内容を英語で積極的に表現しているが、基本的な語彙や語法など、基礎・基本の定着が課題となる生徒も見られる。	少人数習熟度別クラスに学力向上支援講師を取り入れ、1学級3クラス展開の授業を行っている。各クラスの人数及び習熟度が均等になるように分け、お互いに教え合いながら理解を深めていけるようにする。単語テストを定期的実施し、語彙力を強化している。	理解度に差が出る場合や、発展的な表現方法を学習する際には、少しずつヒントを与えながら協同学習を進めている。ALTとコミュニケーションをとる機会を設けることで、生徒の伝えたいという意欲を向上させる。
第二学年	英語に対する興味や意欲が高い生徒が多い一方で、基礎的な語彙や文法事項が身につけていない生徒もいる。自分について発表したり表現したりすることを躊躇する傾向がある。	少人数習熟度別クラス学力向上支援講師を取り入れ、1学級3クラス展開の授業を行っている。各クラスの人数及び習熟度が均等になるように分け、お互いにコミュニケーションを取りながら理解を深めていけるようにする。単語テストを定期的実施し、語彙力を強化している。	理解度に差が出る場合や、発展的な表現方法を学習する際には、少しずつヒントを与えながら協同学習を進めている。ALTとコミュニケーションをとる機会を設けることで、生徒の伝えたいという意欲を向上させる。
第三学年	英語に対する興味や意欲が高い生徒が多く見られるが、基礎的な内容が定着していない生徒もおり、学力差が見られる。	少人数習熟度別クラスに学習支援講師を取り入れ、1学級3クラス展開の授業を行っている。各クラスの人数及び習熟度が均等になるように分け、お互いに教え合いながら理解を深めていけるようにする。単語テストを定期的実施し、語彙力を強化している。	理解度に差が出る場合や、発展的な表現方法を学習する際には、少しずつヒントを与えながら協同学習を進めている。ALTとコミュニケーションをとる機会を設けることで、生徒の伝えたいという意欲を向上させる。